



江野川 えのがわ

正式名称は樋管統一水路

江野川の正式名称は樋管統一水路と言います。

昭和以前の旭区の地域は純農村地帯でした。当然田畑の灌漑用水として淀川の堤防に樋門・樋管をもうけ、農業用水の取り込みをしていました。しかし、これらが老朽化すると堤防の安全に影響を与え、補修費用も多額に上ることから、それらを統一し、一ヶ所から取水して堤内用水路で田畑に配分する計画が建てられました。

枚方市字伊加賀地先に新合同樋門を建設し、上庄・出口・二十箇・茨田・佐太・八雲・五箇・榎並の8用水樋をまとめ、さらに流末の予備水路として在来の榎並用水の一支江野樋の地点を基点に、城北運河（現、城北川）へ放流する計画です。

この事業は昭和8年に着工、昭和9年に完成しました。

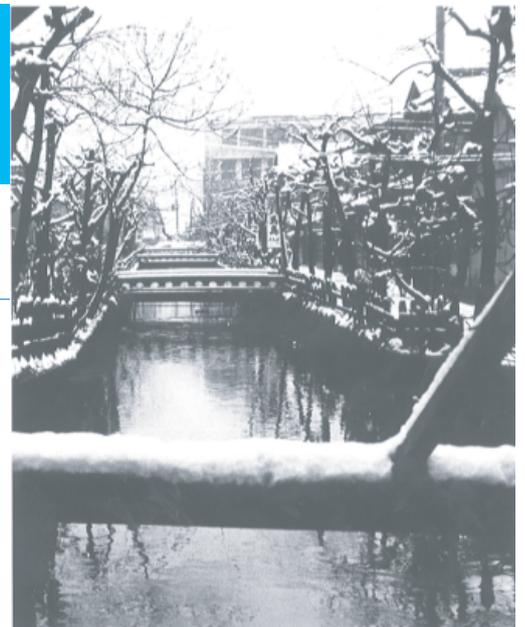
昭和～江野川と土地区画整理事業

昭和に入ると大阪市は、大大阪(ダイオオサカ)と称される程工業・商業が発達し、それらに関わる人々の住居地帯の整備のため、土地区画整理事業が始まりました。

旭区の中宮地区は、榎並の荘土地区画整理事業として昭和7年より工事が始まり、昭和17年に完成。今の様な碁盤目の町が完成しました。

それまで農業用水だった江野川は、雨水・悪水の排出路として利用目的が変更されていきました(ちなみに江野公園はこの区画整理事業の一つとして昭和12年にできました)。

大阪で万博(昭和45年)が開かれることとなり、交通網の整備のため高速道路が計画されました。その予定地として江野川の上を使用することになりました。



■昭和42年頃の江野川
中宮4丁目の城北公園通りから北側を撮影
(写真：旭区ホームページより)



■枚方市の淀川沿いにある
合同樋門跡のプレート



■枚方市の水面回廊にある
合同樋門の記念プレート

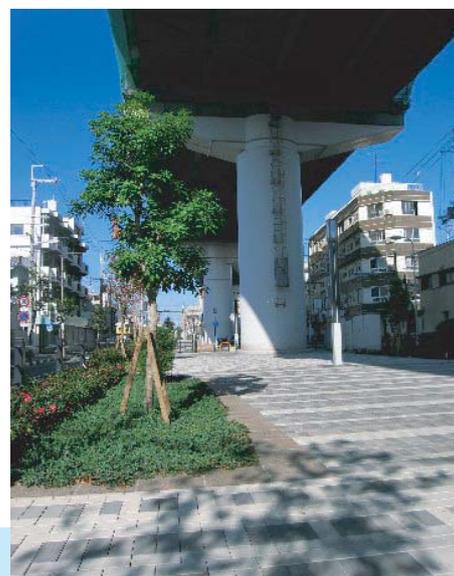


■唯一残る江野川に架かっていた「大和橋」の2つ親柱
(大阪工業大学の前)

しかし、道路予定地に沿って大宮西小学校・大宮中学校・大阪工業大学等教育施設が並んでいるため環境問題として反対運動が起きました。話し合いが続けられ、高架橋の高さを嵩上げし、さらにプラスチック板の遮音壁を造ること、及び江野川跡を緑陰道路化することで話し合いがつかしました。結局守口線は万博には間に合わず、昭和46年に共用開始となりました。

江野川は昭和49年に完全に暗渠化され、江野川筋自転車歩行者専用道路(守口市外島町から大阪市旭区区役所までの約3.5km)として整備され現在に至ります。 <富増>

■江野川筋自転車歩行者専用道路



旭区と川

——— 今の旭区が変化したことを知りました。

高殿へ約25年前に移り住むことになり、現在の旭区のことしか解らないので、昔の町を知りたくてこの会に参加させて頂きました。

この街は淀川によって発展。風水害にあたりしたが京街道や太閤堤に守られてきました。

明治から大正にかけて、淀川の大改修によって淀川が安定し、農園地帯となり江野川、井路川が網の目のように事細かく流れ、田畑や小舟の便に利用されました。

この土地に京阪電車が走り、大阪に行って働く人達の町へ。

千林商店、ダイエーをはじめ、ニチイ、長崎屋の大店の進出。

平太の渡しから豊里大橋へ。地下鉄、国道1号、大阪内環状線、阪神高速などが発展したが、代わりに江野川や井路川がなくなりました。 <遠藤>